

ラ・サール中学校・高等学校の入学式が行われました

2024年4月4日、本学園の入学式がヨセフホールで行われ、新中学1年生173名、新高校1年生212名がラ・サールファミリーの仲間入りを果たしました。

私たちの学校では、生徒やOBを「ラ・サーリアン」と呼び、そのラ・サーリアンが卒業後も年齢や地域をこえて家族のように密接な交流を続けます。その根元にある「家族のように助け合い、支え合う気持ち」を私たちは「ファミリースピリット」と呼び、大切にしています。こうしてファミリーのメンバーが増えることは、ラ・サーリアンたちにも、そして私たち学校教職員・寮教職員にとってもとても幸せなことです。

初めてラ・サール学園での生活を始める新中1、他中出身の新高1はもちろんのこと、すでに中学3年間をラ・サールで過ごした新高1もさすがに緊張の面持ちで、式典に臨みました。

式典は中高別に行われましたが、式次第は共通で、入場し着席した新入生の名前が担任によって一人一人読み上げられ、その生徒はその場で起立します。全員の点呼が終わると校長先生が「皆さんの入学を許可します」と入学宣明を行い、続いて式辞を述べました。校長先生は手作りの風車を披露し、新入生に次のように語りかけました。

自分が風車だと想像してみてください。何があなたを動かしますか？ あなたにとっての風とは、何ですか？ これまでの成功を可能にした言葉、もの、自信、やる気、目標といったものが、これからは風として常にそばにあることを願います。

思い通りにいかずに風が弱まり、風車の回転が弱まってしまった時は、自分の内側にある原動力、例えば家族からあなたへの愛や信頼、友情、自分自身や他者への信頼と尊敬などを思い出しましょう。動き続けることがきつくなったら、ご家族、友人、先生からの助言を風として、あなたという風車を再び動かしましょう。

偉大な成功には時間と忍耐と意志の強さが必要です。諦めてはいけません。忍耐と強い精神力があれば、あなたが願うところまで行けます。今日は、自分の中にある大きな力を引き出すための新たなステージの始まりです。

聖書には「神が人間に聖なる息を吹きかけ、彼は命を得た」と書かれています。あなたが「神の息吹」を持ち、喜びと目的を持って生きることを神が望んでいることを忘れないでください。

その後、新入生代表が「校則を守り、勉学に励みます」と新入生宣誓を行い、来賓祝辞、保護者代表挨拶をいただいて、式典は終了し、新入生は新たなスタートを切りました。





ラ・サール高等学校 今春の大学入試結果 (2024年4月16日現在)

今春の卒業生 199名

国立大学	現役	卒生	合計	医
北海道大学	2	2	4	1
東北大学	1		1	
筑波大学	2	1	3	1
東京大学(合計)	24	13	37	
文科1類	4	4	8	
文科2類	3	3	6	
文科3類		2	2	
理科1類	14	2	16	
理科2類	2	2	4	
理科3類	1		1	1
一橋大学	3	3	6	
東京工業大学	1		1	
東京医科歯科大学	2	1	3	2
埼玉大学	1		1	
横浜国立大学	5	1	6	
山梨大学		1	1	1
新潟大学		1	1	1
浜松医科大学	1		1	1
名古屋大学	1		1	
岐阜大学		1	1	
三重大学	1	1	2	2
京都大学	3	3	6	1
京都工芸繊維大学	1		1	
大阪大学	5	3	8	2
大阪教育大学	1		1	
神戸大学	1	1	2	2
香川大学		1	1	1
高知大学		1	1	1
愛媛大学		1	1	1
島根大学		1	1	1
広島大学		1	1	
山口大学	1	1	2	2
九州大学	13	12	25	18
佐賀大学	3	1	4	4
長崎大学	2	4	6	4
熊本大学	3	6	9	8
宮崎大学		3	3	3
鹿児島大学	6	9	15	13
琉球大学	1		1	1
国立計	84	73	157	72

大学校等	現役	卒生	合計	医
防衛医科大学校		4	4	4
防衛大学校	1	1	2	
大学校等計	1	5	6	4

	現役	卒生	合計	医
愛知県立芸術大学		1	1	
名古屋市立大学	1		1	1
大阪公立大学	1	1	2	1
奈良県立医科大学		1	1	1
和歌山県立医科大学	1		1	1
公立計	3	3	6	4

私立大学	現役	卒生	合計	医
岩手医科大学		2	2	2
東北医科薬科大学		2	2	2
自治医科大学	1	3	4	4
獨協医科大学	1		1	1
埼玉医科大学		1	1	1
国際医療福祉大学	1	4	5	5
杏林大学		2	2	2
慶應義塾大学	8	17	25	2
国際基督教大学		1	1	
順天堂大学	2		2	2
上智大学	1	4	5	
昭和大学		1	1	1
中央大学	3	11	14	
東海大学	1	2	3	2
東京慈恵会医科大学		1	1	1
東京理科大学	2	18	20	
日本医科大学	1	1	2	2
日本獣医生命科学大学		2	2	
明治大学	4	11	15	
早稲田大学	13	24	37	
北里大学		2	2	1
愛知医科大学		1	1	1
同志社大学	1	7	8	
立命館大学		9	9	
関西医科大学		4	4	4
兵庫医科大学		1	1	1
久留米大学	2	5	7	7
産業医科大学	1	5	6	6
福岡大学	7	1	8	3
その他	6	18	24	
私立計	55	160	215	50

国・公・私大・大学校等	現役	卒生	合計	医
総計	143	241	384	130

※欄外の「医」は医学部医学科の合格者数を表しています。



第1回 小田 槿太郎君(高校3年)

石川県出身。ラ・サール中→ラ・サール高。中学時代から陸上と勉学の両立に励み、2023年インターハイと鹿児島国体に県代表として出場しました。

(インタビュアー 西本志織先生(国語科))

——まず、進学先に本校を選んだ理由を教えてください。石川県出身だと、周囲にラ・サール進学者が多いわけではないけれど、どういう経緯で、鹿児島に来ることを決意したのかな。

小田:もともと中高一貫の学校を考えていたのですが、石川県内にはあまり選択肢がないんです。そこで、寮があることを条件に、地域を問わず、いろいろな学校を調べ、見学もしました。そこで最終的にラ・サールを選んだのには2つ理由があります。1つは、寮の設備が一番整っていたこと。もう1つは、母が九州出身で、その弟である叔父がラ・サール卒(49期=2000年3月卒)だったのでいろいろ話が聞けたこと。それで、ラ・サール受験・進学を決意しました。

——陸上は小学校のころからやっていたんだよね? 陸上の強豪校に、という考えはなかったの?

小田:そうですね、特には……小学校の頃はサッカーもしていたので、「部活がある程度できること」というのは進学先を選ぶ条件の一つではあったけれど、陸上だけで生きていこうとか、そういう風には思わなかったです。

——改めて、中・高での戦績を。

小田:中学では全中(全国中学校体育大会)の男子200mで2位(22.35秒)。高校では昨年(高2)、南九州大会の100mで優勝(10.61秒)。インターハイは100m・200mともに予選まででしたが、国体では少年の部100mで準決勝まで行きました(10.54秒)。最近だと、2月開催の日本室内陸上大会20歳以下の部でB決勝(予選9~16位が対象)まで進出しました。

——1日の平均的な過ごし方を教えてください。

小田:平日は7時起床で学校に行き、放課後18時半まで部活、その後下宿に戻って食事と入浴を済ませ、20時から24時まで学習。休日は7時起床で11時まではクラブチームで練習、その後下宿に戻って昼食、13時~17時半まで学習、19時までに入浴と食事を終え、再び19時~24時まで学習して就寝、です。

——それだけ学習時間をとりながら、陸上で結果を出すこととの両立は大変だと思うけれど、何か工夫していることは?

小田:高1の時は陸上でなかなか結果が出なかったんです。コロナもあって2ヶ月くらい満足な練習ができなくて出遅れてしまったことと、学習面でもやはりいろいろと変化があったため、だと思んですけど、そのとき、たとえば早起きで勉強、なんてことをやっていた時期もありました。でも、授業中に眠くなってしまうんですね。これじゃ本末転倒だということで、起床時間・食事の時間・就寝時間を固定してみたところ、生活にリズムが出てきて、授業中も眠くならずに集中できるようになりました。寮にいたことで自分の生活を思い通りに組み立てやすかったというのが良かったのだと思います。その頃から陸上の方も調子が良くなってきて、秋の九州大会で100・200mともに5位に入りました。嬉しかったですね。「全国大会に行けるかも」と思えたのもこのときでした。それ以来、何にしても生活リズムを一定に整えることの大切さを痛感して、今も続けています。

——今年(高3)の目標は?

小田:インターハイと国体、両方で優勝すること。現実的な言い方をすると「どちらも決勝まで進出すること」ですね。大学受験を1年後に控えて勉強も忙しくなっているので、県などの強化合宿の際にいろいろ教えてもらった練習メニューをもとに効率的な練習方法を考え、自分の一日の時間の使い方を見直すことで、学習時間をいかに捻出するか、が力ギになるんじゃないかと思っています。

——遠方からラ・サールを目指す受験生に、ひとことお願いします。

小田:鹿児島に縁が無いというか、親戚などがいない人は、ラ・サールを遠く感じて、おじけづいてしまうか

もしれません。特に僕のように周囲にラ・サール進学者が少ない場合は、寂しい思いをするんじゃないかと心配になる人もいるでしょう。でも、寮に入ると年齢・出身問わず、たくさんの友人が出来ます。しかもみんな多才で、自分にないものを持っている人ばかりで、全然寂しくない。これが一生の財産になっていくんだと思います。そして、部活でも委員会活動でも、ラ・サールは勉強以外のやりたいことに打ち込める環境にあります。勇気を出してラ・サールの門をたたいてください!





本校では、多くの学年で担任や教科担当教員による「読書案内」を定期的に発行し、生徒や保護者の皆さんにお届けしています。

2010年、中学1年の担任団が手分けして読書案内をまとめ、印刷して生徒に手渡し、この取り組みが始まりました。その中心が英語科の丸山晃先生です。それ以来、読書案内は各学年に

広がり、丸山先生も休むことなく毎月、本のお話を続けました。その読書案内を始めて10年経ったところで、丸山先生はそれをまとめて『旅をする本』として出版されました。今後、(忙しい月を除いて)毎月、この本の内容やその後の文章などを、この学園通信でもお届けします。

今回は丸山先生の自己紹介です。

皆さまこんにちは。英語科教諭の丸山^{まるやまあきら}晃と申します。ラ・サール学園に関心を持ってくださりありがとうございます。職員として、またOBとして(1998年卒業)、心から御礼申し上げます。

早いもので、母校の教壇に立つようになって今年で20年です。その間、中学1年生から高校3年生まで持ち上がる事が多くありました(学校のシステムとして必ずそうなると決まっているわけではありません)。

初めて中学1年生の担任をしたのは、2010年度です。4月4日の入学式にて、担任する生徒一人ひとりの名前を呼びました。入学したての、やや緊張した面持ちの彼らを前に、「この生徒たちと6年を共にしたい。ラ・サールに入っ

てよかったと思ってもらえますように」と願ったことを覚えています。中学1年生を担当する先生たちにご協力いただき、以前から温めていた試みを実行に移したのはこの時でした。月に一回、生徒たちに向けた読書案内を発行したいと思っていたのです。先生たちの快諾を得て、毎月一度の読書案内冊子がスタートしました。

現代文の先生と私は毎月原稿を書き、他教科の先生には持ち回りで書いてもらいます。共有フォルダに集まった原稿を、最終的に私が編集して冊子にします。編集人として、先生たちが毎回寄せてくれる原稿を読むのが楽しみでした。単なる本の紹介にとどまらない、温かなメッセージに満ちていたからです。1冊の本から汲み出されるメッセージの多様性に、私はいつも心を動かされていました。

生徒たちも、この取り組みを好意的に受け止めてくれたように思います。もともと読書が好きな生徒が多いと感じますが、冊子で紹介された本を読む生徒の姿を見たり、読んだ感想を「生活の記録」に見つたりするのは嬉しいものでした。

毎月原稿を書いてきたことで、いつしか私には、「読書を織りこみながら人生を編んでいく。それはなんと素敵なことだろう」という感覚が宿っていました。ある本を、たまたまそのタイミングで読んだからこそ、感じられる思いがあります。読書体験とは、その偶然を積み重ねていくことかもしれません。読書によって

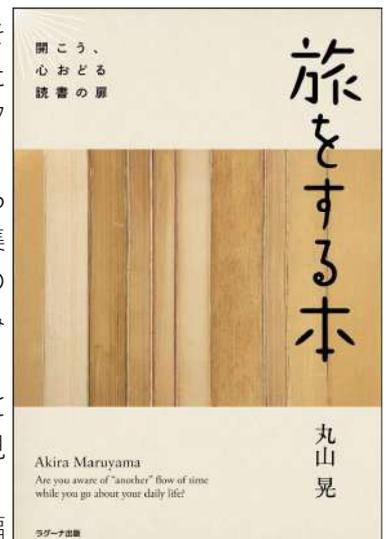


生まれた心の波紋を、消えてしまう前に文章に残していくことには、きっと意味があるのでしょう。

2010年入学の生徒たちは卒業し、私はまた中1にいましたが、読書案内冊子の発行は続けました。2020年、読書案内が10年になるのを機に、その歩みを本にまとめることを思い立ちます。鹿児島で本作りに関わる方々の協力のもと、10年間分の文章に加筆・編集し、『旅をする本』としてラグーナ出版から上梓することができました(2020年7月刊行)。

自分なりに続けてきた営みを形にできるのは嬉しいことです。そして、学校内での試みが学校の外に出て、『旅をする本』が誰かに寄り添えることがあるのなら、こんなに幸せなことはありません。

このコーナーでは、『旅をする本』について、『旅をする本』で紹介した本について、また『旅をする本』出版後に生徒たちに紹介した本について、書いてみたいと思います。どうぞよろしくお願いします。





(クイズロゴは番組HPより)

本校教員が出場しました

本校教員チーム（一色慶哉先生（政経倫理）、浦川直大先生（数学）、佐藤和正先生（生物）、横田和也先生（英語））は全国128校による「全日本高校先生クイズ選手権」地区予選を勝ち抜き、3月10日に「九州・沖縄・中国地区代表」として決勝大会に出場しました。その模様が3月24日にTBS系列で全国放送され、本校チームはファイナル進出こそ逃したものの、クイズ研究会メンバーによる熱烈な応援を励みに、最後まで粘り強く戦いました。

今、浦川先生の机の前には、決勝大会で使われた名札と、メンバー・応援団が皆お揃いでつけていた青いリングが飾られています。

ところで、優勝賞金300万円をいただいで取り組むはずだった中庭の舗装工事ですが、優勝は逃したものの、今年度取りかかることになりました。



カフェだより 第1回 おにから



【ラ・サール生の胃袋を 掴む人気メニュー】

4限終了のチャイムと同時に、生徒が走って買いに来る「おにから弁当」。「おにぎり・からあげ・たくあん」が入った、常に即完売、不動の人気メニューです。

文化祭（6月）、入試説明会（10月）など来校の際にはぜひご賞味ください★

東京地区学校説明会
令和6年5月18日（土）
12時30分～14時
経団連会館2階 国際会議場にて
（東京都千代田区大手町1の3の2）
※事前予約は不要です

編集後記

このたびラ・サール学園に広報委員会が発足し、学校の情報を広く発信することになりました。その一環としてこれから毎月1回程度、学園通信をお届けいたします。おそらく月により情報量が大きく変動しますが、学園のさまざまな行事や活動をご紹介しますので、ご愛読いただければ幸いです。この学園通信とともに、別の新企画も進んでおりますので、楽しみにお待ちください。（第1号編集責任者 麻生善三）

学校法人ラ・サール学園（ラ・サール中学校/高等学校） [ラ・サール学園](#) [検索](#)
〒891-0192 鹿児島市小松原2-10-1 電話099-268-3121 FAX099-268-3122
※学校見学の申し込みを随時受け付けております。事前に事務室にご連絡ください。